

第2部

計画等の進捗状況

第1章 栃木県環境基本計画の進捗状況

本県においては、県の環境保全に関する基本目標と長期的な施策の方向を掲げた栃木県環境基本計画(令和3(2021)年3月策定)に基づき、県民、事業者及び市町の参加と協力のもとに、「守り、育て、活かす、環境立県とちぎ」の実現に向け、4つの基本目標と17の指標を設定の上、取組を進めてきた。令和6(2024)年度における本計画の達成状況の評価は下記のとおり。

【括弧内()は、前年度の数値】

基本目標	指標数	達成状況			
		◎	○	△	▲
1 脱炭素社会の構築と気候変動への適応を目指す「とちぎ」	6	1(1)	2(4)	1(1)	2(1)
2 自立・分散型エネルギーで支えられる災害に強い「とちぎ」	2	0(0)	1(1)	1(0)	0(1)
3 良好な生活環境が保全された「とちぎ」	6	3(2)	1(1)	2(1)	0(2)
4 人と自然が共生する「とちぎ」	3	0(0)	0(0)	2(2)	1(1)
計	17	4(3)	4(6)	6(4)	3(4)

(◎) 計画最終年度(R7)の目標を達成したもの

(○) 当該年度(R6)の目標を達成したもの

(△) 当該年度(R6)の目標は未達成だが、前年度より改善したもの

(▲) 当該年度(R6)の目標が未達成で、かつ、前年度より改善していないもの

1 脱炭素社会の構築と気候変動への適応を目指す「とちぎ」

指標項目	設定値 R1(2019)	年度目標値/実績値/達成状況			目標値 R7(2025)
		R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	
①温室効果ガス排出削減率 <H25(2013)年度比>	8.8 [H29(2017)]	11.2	12.0	20.7	32.0
		[R2(2020)]	[R3(2021)]	[R4(2022)]	
		16.2	15.7	20.2	
		[R2(2020)]	[R3(2021)]	[R4(2022)]	
②エネルギー消費削減率(%) <H25(2013)年度比>	6.8 [H29(2017)]	○	○	△	21.4
		12.3	14.1	15.9	
		[R2(2020)]	[R3(2021)]	[R4(2022)]	
		13.6	14.1	13.2	
③再エネ電力自給率(%)	21.2	○	○	△	35.2
		30.7	32.5	34.3	
		33.3	36.1	37.0	
		○	◎	◎	
④電動車新車購入率(%)	29.3	△	○	○	50.0
		40.0	43.0	47.0	
		36.7	43.2	48.9	
		△	○	○	

※ 表中の設定値及び年度目標値/実績値の[]内はその数値の年度データである。

指標項目	設定値 R 1 (2019)	年度目標値/実績値/達成状況			目標値 R 7 (2025)
		R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	
⑤再生可能エネルギー設備導入容量 (万kW)	262	321.0	347.0	372.0	380.0
		341.8	363.7	375.9	
		○	○	○	
⑥県内民有林の間伐面積 (ha/年)	3,254	3,500	3,500	3,500	3,500
		3,177	3,182	3,164	
		▲	△	▲	

【目標が達成できなかった指標】

①温室効果ガス排出削減率 【R 4 目標値】 20.7% → 【R 4 実績】 20.2%

②エネルギー消費削減率 【R 4 目標値】 15.9% → 【R 4 実績】 13.2%

※「温室効果ガス排出量＝エネルギー消費量×排出係数」であるため要因及び対策は同一記載
 <目標未達の要因>

- ・交通分野や家庭分野のエネルギー消費量が増加したため、温室効果ガス排出削減率及びエネルギー消費削減率は目標値に届かなかった。
- ・コロナ禍での外出自粛の緩和による自動車利用の増加や、夏の気温が平年に比べ高かったことによる冷房需要の増加などが影響したと考えられる。

<対策>

- ・各分野において、引き続き「2050年とちぎカーボンニュートラル実現に向けたロードマップ」の戦略的な展開を図り、温室効果ガス削減対策の実効性を高めていく。

⑥ 県内民有林の間伐面積 【R 6 目標値】 3,500 (ha/年) → 【R 6 実績】 3,164 (ha/年)

<目標未達の要因>

- ・限られた労働力の中、下記の理由により、間伐に対して十分に労働力を割くことができなかったことが考えられる。
 - ✓ 森林の維持管理のための間伐作業や木材生産のための伐採及び造林・保育（植栽、下草刈等）を一体的に進める必要があること
 - ✓ 9月豪雨による林道崩壊被害の影響

<対策>

- ・林業大学校を中核とした新たな林業人材の確保育成
 - ・ICT等の先端技術を活用したスマート林業技術の活用による作業の効率化・生産性の向上を図る。

2 自立・分散型エネルギーで支えられる災害に強い「とちぎ」

指標項目	設定値 R 1 (2019)	年度目標値/実績値/達成状況			目標値 R 7 (2025)
		R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	
⑦電力自給率(%)	40.3	76.0	79.0	82.0	85.0
		78.2	79.0	84.6	
		○	○	○	
⑧地域電源供給拠点数(箇所) ※累計	0	20	30	40	50
		0	0	6	
		▲	▲	△	

【目標が達成できなかった指標】

⑧地域電源供給拠点※数 【R 6 目標値】 累計40（箇所） → 【R 6 実績】 累計6（箇所）

※発災時、避難所等で給電活動を行う栃木県災害時協力車（E V ・ P H V等）に対して優先的に充電する急速充電施設

＜目標未達の要因＞

- ・整備が進まない要因として初期コストが高額であると考えられる。
- ・そのため、補助制度の拡充、登録要件の緩和を実施してきており。特に登録要件の緩和については、昨年度から、再エネ由来以外の電力を用いている設置済みの急速充電器も登録可能としたことで、徐々に登録が増加してきた。

＜対策＞

- ・目標達成に向け、既に急速充電器を設置している事業者に個別に働きかけていくとともに、周知を行っていく。

3 良好な生活環境が保全された「とちぎ」

指標項目	設定値 R 1 (2019)	年度目標値/実績値/達成状況			目標値 R 7 (2025)
		R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	
⑨大気環境基準（N O ₂ ）達成率（%）	100	100	100	100	100
		100	100	100	
		◎	◎	◎	
⑩公共用水域の環境基準（B O D）達成率（%）	96. 9	100	100	100	100
		100	98. 5	98. 5	
		◎	▲	△	
⑪生活排水処理人口普及率（%）	87. 7	90. 5	89. 8（注）	90. 2	90. 7
		89. 3	89. 9	90. 6	
		△	○	○	
⑫県民1人1日当たりの生活系一般廃棄物の排出量（g）	672 [H30 (2018)]	661	657	654	650
		[R 3 (2021)]	[R 4 (2022)]	[R 5 (2023)]	
		682	664	639	
		[R 3 (2021)]	[R 4 (2022)]	[R 5 (2023)]	
⑬県内で排出された一般廃棄物の最終処分量（千t）	57 [H30 (2018)]	△	△	◎	53
		55	54	54	
		[R 3 (2021)]	[R 4 (2022)]	[R 5 (2023)]	
		58	63	56	
⑭県内で排出された産業廃棄物の最終処分量（千t）	87 [H30 (2018)]	[R 3 (2021)]	[R 4 (2022)]	[R 5 (2023)]	84
		△	▲	△	
		85	85	84	
		[R 3 (2021)]	[R 4 (2022)]	[R 5 (2023)]	
		88	84	77	
		[R 3 (2021)]	[R 4 (2022)]	[R 5 (2023)]	
		▲	◎	◎	

※ 表中の設定値及び年度目標値/実績値の〔 〕内はその数値の年度データである。

（注）は令和5（2023）年10月に「栃木県生活排水処理構想（令和5（2023）年3月改定）」の改定内容と整合を図るため、目標値の見直しを行ったものである。

【目標が達成できなかった指標】

⑩公共用水域の環境基準（B O D）達成率 【R 6 目標値】 100（%） → 【R 6 実績】 98. 5（%）

＜目標未達の要因＞

- ・県内河川の67観測地点のうち1地点（環境基準：3. 0mg/L以下）で環境基準を超過（3. 3mg/L）した。

- ・基準値超過の要因は特定できなかったが、当該1地点は渇水期である冬季（1～3月）にBOD値が大きくなる傾向がある。

＜対策＞

- ・基準値超過の要因把握のため、渇水期などにおいて、現地確認などを実施
- ・生活排水対策として、下水道の整備促進や合併処理浄化槽の設置促進
- ・工場・事業場排水対策として、立入調査による排水処理施設の維持管理の指導、水質検査実施

⑬県内で排出された一般廃棄物の最終処分量【R5目標値】54（千t） → 【R5実績】56（千t）

＜目標未達の要因＞

- ・家庭ごみ中への資源物や食品ロス由来の廃棄物等の混入により、再生利用率が低下し、最終処分量が目標値に届かなかった。

＜対策＞

- ・市町等に対する研修会を通じて、ごみの排出抑制及び資源ごみの分別推進の啓発と機運醸成を支援

4 人と自然が共生する「とちぎ」

指標項目	設定値 R 1 (2019)	年度目標値/実績値/達成状況			目標値 R 7 (2025)
		R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	
⑮造林面積(ha/年)	408	575	650	680	700
		431	528	480	
		△	△	▲	
⑯自然公園入込数(千人)	22,795	24,400	24,600	24,800	25,000
		16,852	17,614	17,993	
		△	△	△	
⑰野生獣による林業被害額(億円)	1.35	1.23	1.18	1.14	1.10
		1.81	2.30	1.20	
		▲	▲	△	

【目標が達成できなかった指標】

⑮ 造林面積 【R6目標値】680（ha/年） → 【R6実績】480（ha/年）

＜目標未達の要因＞

- ・主伐実績に呼応して造林面積は推移しており、ウッドショック後の木材価格下落により伐採が控えられたことで主伐面積が減少した結果、造林面積は目標値に届かなかった。

＜対策＞

- ・林業大学校を中核とした新たな林業人材の確保・育成に取り組む。
- ・ICT等の先端技術を活用したスマート林業技術の活用による作業の効率化・生産性の向上により、主伐及び再造林を促進する。

⑯ 自然公園入込数 【R6目標値】24,800（千人） → 【R6実績】17,993（千人）

＜目標未達の要因＞

- ・前年度と比べて改善（約38万人増加）したものの、目標値には届かなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大で大きく落ち込んだ入込数は、回復基調は見られるものの、感染拡大前の水準に達していない。

＜対策＞

- ・国内外からの誘客を促進するため、国立公園満喫プロジェクト「ステップアッププログラム2025」の取組を、国や市、地元関係団体などと連携して積極的に推進していく。

⑰ 野生獣による林業被害額 **【R6目標値】 1.14（億円）** → **【R5実績】 1.20（億円）**

＜目標未達の要因＞

- ・前年度と比べ被害金額は減少したが、シカ・クマによる利用期を迎えた市場価値の高い樹木の剥皮被害等の林業被害が発生し続けている

＜対策＞

- ・市町が行うシカ捕獲への支援や県による捕獲の推進、狩猟の担い手確保・育成、ドローンを活用した効率的な捕獲や捕獲省力化のための通信環境整備等に取り組んでいく。
- ・防護については、引き続き獣害対策への支援を実施するとともに、捕獲と忌避剤散布を組み合わせた省力・低コストな手法の検証を行う。